

令和6年度 小松市立高等学校 学校評価(年度末)

重点事項	具体的な取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価	最終評価	分析(成果と課題)と次年度へ向けて	判定基準	備考
1「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。その際、ICT機器を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。	1 生徒の主体的に学習を進める態度を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を推進する。	教務課 各学年	素直で真面目な生徒は多いが、授業において受け身の姿勢でいる傾向が見られる。自ら考える姿勢と積極的な取り組みを引き出せるような授業実践に向けて、より一層の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が各教科・科目の授業に対して積極的に取り組もうと思っている。	授業評価の質問10「この教科・科目に積極的に取り組もうと思える」における全体の平均値が A 3. 6以上 B 3. 55以上 C 3. 5以上 D 3. 5未満	7月の授業評価の結果は3. 59だった。数値の高い教科は3. 82で、低い教科は3. 46だった。学年別で見ると、1年生3. 57、2年生3. 51、3年生3. 64であり、学習難度の上がる2年生で積極性がやや下降するも進路実現に向けて3年生で高まっていくと考えられる。生徒の学習意欲がより向上するよう取り組みを継続していく。	B (3. 59)	A (3. 62)	12月の授業評価の結果は3. 62だった。7月と比較すると、5教科は3. 55→3. 57、実技教科は3. 69→3. 74で、概ねどの教科も数値が上昇している。授業改善の研修による各教員の工夫が奏功したと考えられる。今後も生徒の学習意欲向上に向けて取り組みを継続していきたい。	学校評価アンケート	
	2 「総合的な探究の時間」における個人発表やグループ発表、フィールドワーク等を通して、生徒の表現力を育成する。	教務課	昨年度授業や総合的な探究の時間における個人発表やグループ発表を通して、話したり発表したりする力がついてきたと感じる生徒は、8割程度いる。グループ発表やフィールドワークを通して、生徒の表現力を伸ばしていく。	【満足度指標】 総合的な探究の時間において、主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う(よくあてはまる、ややあてはまる)教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う(よくあてはまる、ややあてはまる)教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	(よくあてはまる、ややあてはまる)と回答した生徒・教職員の割合は、生徒77.8% 教職員81.6%であった。 今後、フィールドワークで得た情報の整理・分析や考察の場面で活発な意見交換ができるよう指導するとともに、11月の中間報告会に向けて、生徒の表現力や発信力が十分に發揮できるよう指導していく。	生徒C (77.8%) 教職員B (81.6%)	生徒B (82.8%) 教職員B (81.6%)	(よくあてはまる、ややあてはまる)と回答した生徒・教職員の割合は、生徒77.8→82.8% 教職員81.6→81.6%であった。 1年を通して、生徒の表現力や発信力が十分に發揮できるよう指導していく。	学校評価アンケート	
	3 大学入学共通テストに対応できるように、1、2年生のうちに生徒の大学進学意識を向上させ、学力の定着を目指す。また、成績上位層から中間層の生徒を増やし伸ばすべく、模試分析に基づいた授業改善を行い、学力向上を目指す。	進路指導課 1学年 2学年	1年生では、進路希望を念頭に置いて文理選択できるよう指導するとともに、学力伸長に向けて継続的に努力するよう指導している。2年生では、具体的な目標を持たせ、様々な進路希望、学力層に応じた学習指導をしている。1、2年生で大学受験に対応できる基礎学力をつける必要がある。	【成果指標】 学年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	模試による国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が 国語: A 40人以上 B 35人以上 C 30人以上 D 30人未満 数学: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満 英語: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満	1月進研記述模試の結果 1年生 国語47人 数学14人 英語26人 2年生 国語29人 数学10人 英語19人 1年生は国語が引き続き伸びた。数学は苦手とする生徒が減り、平均点偏差値の過去4年比は最高である。英語は順調に成績が向上した。 2年生は、昨年度と比較すると国語・英語ともに成績は上昇している。数学は平均点偏差値は良好で、苦手とする生徒は減っている。今後はさらに底上げしたい。	年度末に評価	1年 国語 A 数学 D 英語 B 2年 国語 D 数学 D 英語 D	偏差値50以上の人数の推移(7月→11月→1月) 1年生 国語39名→41名→47名 数学23名→31名→14名 英語15名→18名→26名 2年生 国語24名→26名→29名 数学21名→11名→10名 英語6名→22名→19名 2年生は昨年度に比べて成績は伸びてはいるが、目標には届かなかった。基礎固めを着実に行うとともに、学年全体で学習に意欲的に取り組む雰囲気を醸成したい。	進研模試	
	4 キャリア教育を通じて高い志を持たせるとともに、進路実現に向けて粘り強く学び続けるよう支援する。	進路指導課 3学年	ここ数年、大学進学希望者が増加傾向にある。コロナ禍を経て県内志向が強まっているが、全国を視野に入れて挑戦する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】 自らの生き方や将来に対して高い意識を持つ生徒が、授業や補習、個別指導等を通して学力を伸ばし、国公立大学に現役で合格している。	国公立大学現役合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	3年生進路希望調査では、国公立大学に49名が志望している。各大学の受験情報を把握し、課と学年が連携して進路実現をサポートする。また総合型選抜や学校推薦型選抜など入試形態が多様化しているため、きめ細やかな指導を行っていく。ここまで、放課後補習や学習会、模擬試験を通じて、学習の質、量ともに上げていくよう指導してきた。国公立大学志望者が、最後まであきらめずに努力を続けていくように、引き続き伴走支援をしていきたい。	年度末に評価	B(17名)	国公立大学現役合格者数17名 金沢大学2、富山大学4、公立小松大学9、愛知県立芸術大学1、芸術文化観光専門職大学1 一般選抜で粘り強く頑張る生徒をサポートするとともに、総合型・学校推薦型選抜も積極的に活用していく。	国公立大学現役合格者数	

令和6年度 小松市立高等学校 学校評価(年度末)

2	グローバル社会に対応できる自己発信力を高める。特に英語によるコミュニケーション能力を育成し、英語力向上を図る。	1 英検資格取得にむけて、受検級別に十分な対策をたてる必要がある。計画的に勉強に向えるよう、英検講座を実施し、2年次における実用英語技能検定や12月GTECのスコアアップを目指す。	教務課 進路指導課 英語科	1年次はGTECを2回、2年次は10月の実用英語技能検定と12月のGTECを受験し、生徒の資格取得に向けた英語スキルアップを低学年から行っている。生徒の進路実現に際しても英語の資格が有利に働くよう指導していきたい。	【成果指標】実用英語技能検定およびGTECの受検を通して、2年次修了までに50%の生徒がCEFR A2レベルに到達することを目標にして、五領域のスキルアップを目指す。	2年次修了までにCEFR A2レベル以上の生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 60人以上 D 60人未満	現2年生139名中、1年次12月のGTECにおいて、CEFR-A2レベルの評価を受けている生徒は42名であった。英検に関しては、今年度10月6日に行われる実用英語技能検定に向けて9月7日の英検講座を皮切りに英検対策を本格的に始める予定である。また、英検が終わればGTECのスコアアップを目指し、年間を通じて英語のスキルアップを促していきたい。	年度末に評価	A(97名)	現2年生の12月GTECにおいてA2レベル以上の評価を受けている生徒は97名であった。97名のうち英検2級取得者が2名、準2級取得者が27名いる。また、1月英検の2級に挑戦している生徒が7名(内2名が一次免除者)おり、上位級を目指す生徒が頑張っている途中である。3年次になんでも英語のスキルが上がっていく生徒増やしていきたい。	
3 生徒一人ひとりの品格を高め、規範意識と社会性を身に付けさせるとともに、急速に変化する多様な社会に対応できる主体性を育む。	1 品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通して職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。	生徒課 生徒課		制服を正しく着こなす生徒は増えているが、まだ十分ではない。遅刻者の件数は減少傾向にあったが、昨年度は増加した。常習的に遅刻する生徒がいる。	【成果指標】1日の生徒の遅刻者の平均人数が A 1人以下 B 3人以下 C 5人以下 D 6人以上	8時25分からの朝学習で落ち着いて学習できるよう、8時20分までに登校し、速やかに教室に向かうように指導した。1学期の1日平均の遅刻数は4.6人であった。昨年度よりも増加している。遅刻の多い生徒は個別指導を行なうことで、成果の出ている生徒もいるが、数名の生徒は改善が見られず、また新たに遅刻が増加している生徒もいる。今後も粘り強く指導していく。	C(4.6名) 1年1.1名 2年2.3名 3年1.2名	C(5.0名) 1年1.6名 2年2.3名 3年1.1名	1日平均の遅刻数は5.0名であった。中間評価よりも増加している。1年生、2年生の遅刻が多い。保護者送迎での遅刻が増加傾向で、指導が難しいが、今後も指導を続けていく。		
				【満足度指標】制服の着こなしに対する、教職員評価から判断する。	「生徒は制服を正しく着ている」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は55.3%であった。昨年度の中間アンケート77.8%よりも減少している。生徒が正しく制服着用するよう指導しているでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は100%であった。今後も教員全体での共通指導と生徒の意識改革を図って行きたい。	D(55.3%)	D(39.5%)	学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員は39.5%であった。今年度の中間アンケートよりも減少した。また、「私は生徒が正しく制服を着用するよう指導している」では、「よくあてはまる」126.3%、「あてはまる」と答えた教職員は71.1%であった。今後は、より教員全体での共通指導と生徒の意識改革を図って行きたい。		
4 芸術コース及び部による地域貢献活動を積極的に行い、小市民に愛される学校をめざす。	1 部活動をさらに活性化し、校内外の発表やボランティアなどの活動は再開されており、積極的に活動に取り組んでいる。	生徒課	部活動の発表やボランティアなどの活動は再開されており、積極的に活動に取り組んでいる。	【努力指標】部の発表や活動を通して生徒の発信力が養われる。	すべての部による発表やボランティア活動等の実施回数がのべ A 35回以上 B 30回以上 C 20回以上 D 20回未満	部活動の発表やボランティアなどの活動に、積極的に取り組んでいる。	年度末に評価	A(45回)	多くの部活動が、積極的に取り組みを行っている。		
	2 芸術コース入学希望者の確保のために、本校専攻生による出身中学校訪問・部活指導等、生徒主体の情宣活動を行うとともに、教員による体験入学希望者確保のため中学校訪問を行う。	芸術コース	感染症対策緩和を受け、多くの行事が戻ってきた今、より積極的に対外行事や地域貢献活動、中学校訪問に取り組むことにより、芸術コースの魅力を世に発信していきたい。	【努力指標】地域貢献活動や中学校訪問を通して、芸術コースからの発信力を高め、中学生の芸術コースに対する興味関心が向上している。	11月の芸術コース体験入学参加者数が A 60名以上 B 59~50名 C 49~40名 D 39名以下	7月29日開催の体験入学申込者数は、音楽72名美術74名と、昨年に引き続き、非常に多かった。9月以降は中学校側に向けて積極的に情宣活動を行い、10月の芸術コース体験入学に繋げたい。	年度末に評価	B(53名)	今年度芸術コース体験入学参加数は、音楽32名美術21名の計53名と、昨年度51名とほぼ同数であったが、例年の土曜開催から日曜開催に変更したことにより、多くの保護者の出席があったことは喜ばしいことであった。結果としてはA評価には届かなかったが、今後も多くの地域貢献活動を継続していくことで、地域に愛されるコースを目指し、参加数増に繋げていきたい。		
5 教職員の協働する力を高め、校務の効率化を図り、心身ともに健康な職場作りを行う。	1 超過勤務の時間を減らし、職員の心身の健康を守り、よりよい教育活動を行なう基礎を確立する。そのため、会議の数を最小限に止め、またICT機器の有効活用に努める。	教頭	昨年度の超過勤務(80時間)を超えた職員の延べ人数は、年間で合計6名であった。大部分の職員はワークアンドライフバランスに努めているが、部活動業務などで超過勤務となっている。	【努力指標】「定時退庁日」「ノーギャラリー」はじめ、日頃から業務の効率化を意識し、勤務時間内で業務が終了するよう努力する。	超過勤務80時間を越える職員の割合が、 A 2%未満 B 2~4% C 4~6% D 6%以上	第Ⅰ期(4~6月)の統計では超過勤務80時間を超える教職員の数は以下の通り。 4月:3名 5月:0名 6月:6名 計9名 であった。 4月は年度始めの業務、6月は修学旅行と部活動指導業務に係る対象者であり、時期的な業務の重なりが見受けられた。 今後も業務の効率化を図っていきたい。	D(7.7%)	B(3.3%)	4~3月の統計では超過勤務80時間を超える教職員の数は以下の通り。 4月:3名 6月:3名 7月:2名 8月:3名 9月:2名 3月:2人 計15名 であった。(R5は12名) 超過勤務内容は総体や選抜大会の部活動引率業務や修学旅行引率業務であった。 次年度も業務の効率化を図っていきたい。		